



躍動

大学生活にはチャンスがたくさんある。
思い切って動き始めてみよう。
そこには、体と心が躍動する価値ある4年間がある。



出会い

▷キャンパスに日常が戻り、授業、実習、部活動など、さまざまな場での出会いが楽しみだ。時計を巻き戻すような気持ちで、大学生生活を満喫してほしい。

▷出会いによって、他者の異なる価値観に触れるだけでなく、自分の新たな内面にも気づかせてくれる。その好機となるのが学友会活動だろう。今号では、アルティメット部、ホッケー部、セバタクロ部の各代表が競技や活動について活き活きと語ってくれた。そのバイタリティや笑顔、他者を思う気持ちは、学友会活動によって培われたものであることは間違いない。OB・OGの記事でも、大学時代の出会いがその後の人生さえ変えてしまう可能性があることがわかる。そして、その出会いが一生の財産になる。▷SNSの世界でも、現実社会でも、他者への理解不足によるトラブルやニュースをしばしば耳にするようになった。今こそ、顔と顔、心と心が直接触れ合う経験を大切にしていこう。

学報NITTAIDAI(ニツタイダイ)73号
発行日●2023年7月13日
発行●日本体育大学広報課
TEL 03-5706-0948
FAX 03-5706-0922
https://www.nittai.ac.jp/
制作協力●(株)図書出版

Special Contents

03

<スペシャルトーク>

学友会活動から広がる 人との繋がり新たな可能性

アルティメット部、ホッケー部、セバタクロ部のメンバーが、部活動の魅力や大学生生活を充実させる秘訣を熱く語る!

07

今と未来をリアルに感じる大学の学び

スポーツの現場をトータルに支える アスレティックトレーニング学

～スポーツ実践者のコンディショニングを担うスペシャリストとして
科学と医学の架け橋となるアスレティックトレーナーの役割～

保健医療学部 整復医療学科 河野 徳良 准教授

11

活躍するOG・OB

教員を目指していた高校時代、オープンキャンパスで一目惚れして日体大へ。
在学中に打ち込んだ集団行動が、次の人生の扉を開けた。

糸魚川 彩 氏 キリンビール株式会社

頑張った先に、見えてくるものがある。
転機も困難も、自分にとっては壁じゃない。
応援団や寮生活が、目指すゴールの大切さを教えてくれた。

服部 郁真 氏 横浜冷凍株式会社

15

研究の最前線 総合スポーツ科学研究センター

子どもの未来を拓く 子どものからだ研究所

総合スポーツ科学研究センター長 体育学部健康学科 岡本 孝信 教授
子どものからだ研究所 所長 体育学部健康学科 野井 真吾 教授

17

スポーツが好き! この思いを軸に、
さまざまな分野や舞台で活躍されてきた先生方が、
その豊かな知見や経験を皆さんに伝えます。

<新採用教員紹介>

19

news & topics

- ・硬式野球部 令和5年度首都大学野球春季リーグ戦優勝!
- ・眠れる獅子目覚める!
- 「関東大学バスケットボール選手権大会」にて21年ぶりに関東制覇!
- ・日本体育大学クリニックのご案内

日体大を
極める
Episode 10

学友会の変遷

学友会活動は今日ではごくあたりまえの存在だが、体操学校、体育専門学校、新制大学を通して日体大が担ってきた役割や社会の情勢によって、その活動や意味は変遷を遂げてきた。

明治26(1893)年4月に開所した日本体育会体操練習所は、明治30(1897)年代に入ると卒業生も漸次増加し、卒業生を取り込んだ「学友会」を結成するまでに成長した。これが明治33(1900)年の日本体育会体操学校「校友会」「体育研究会」へと継承される。しかしこの時期は、体育上有益な事項に関する調査研究が目的とされ、今日に近い活動になるのは大正期を待たなければならない。

これは、体操学校が中等学校の「体操科」教員の養成を担ってきたことによる。それが大正期になると、日本のスポーツは国際化の時代を迎え、体操学校においても「スポーツ活動」が奨励されるようになる。こうして、大正14(1925)年、体操学校研究会は運動部を中心に据えて、そのほかの文化的クラブを含めた学友会としての「研究会」へと改組・転換を図った。

昭和10(1935)年代になると、日本体育会体操学校に国際オリンピックと直に接触する好機が訪れるが、昭和15(1940)に東京で開催が予定されていた第12回大会は、戦況により日本政府が開催権を返上し、実現には至らなかった。昭和16(1941)年4月に開校した日本体育専門学校では、従来の活動が報国団に組織替えされるなど、戦時体制に否応なく組み込まれていく。

戦後、昭和24(1949)年3月、日本体育専門学校の新制大学への昇格と日本体育大学(体育学部体育学科)の設置が認可され、昭和26(1951)年に学友会規約が制定されて、スポーツ活動を中心とした本格的な学友会活動がスタートする。さらに、昭和39(1964)年の東京オリンピック開催を契機にその活動が大きな飛躍を遂げていく。

大学スポーツのさらなる活性化を目的に、平成31/令和元(2019)年、一般社団法人大学スポーツ協会「UNIVAS」も誕生した。学生スポーツは今後もますます注目を集めることだろう。同時に、スポーツに打ち込める前提となる平和の大切さも胸に刻みたい。



第9回アムステルダム・オリンピック大会開会式の日本選手団、旗手・中澤米太郎選手
『国民体育』昭和3(1928)年10月号



連覇を果たした日体排球部
『国民体育』昭和7(1932)年12月号

昭和初年代には、柔道、バレーボール、庭球の各部が早くも優勝を手に入れている。さらにオリンピックでは、第9回アムステルダム、第10回ロサンゼルス、第11回ベルリンの各大会へ代表選手を輩出した。

学友会活動から広がる 人との繋がりと 新たな可能性

興味はあるものの、普段なかなか機会がないクラブ間での交流。今回は、一見すると全く違う競技のようで、話してみると意外にも共通点の多い3部活のリーダーが集合。お互い初対面にも関わらず、さすが日体大生！スポーツという共通言語を通して、あっとい間に距離が縮まります。和気藹々とした雰囲気の中、お互いに知りたいことや相談したいことを思う存分話し合ってもらいました。3人の何気ない言葉の中に、私たちが大学生活で参考にできることがたくさんありそうです。



Sepak takraw



Ultimate



Hockey

Ultimate

Sepak takraw

アルティメット部 キャプテン

曾我部 栞菜

(そがへ かんな)

スポーツマネジメント学部
スポーツライフマネジメント学科3年



セバタクロー部 主将

稲葉 瞭

(いなば りょう)

体育学部 体育学科3年

それぞれの競技&クラブの紹介と入部のきっかけ

競技の特徴と魅力を教えてください

間中 ホッケーは、ゴール型のサッカーに近い種目で、スティックと野球ボールくらいの大きさの球を使う競技。タータンに近いグラウンドでサッカーのようにボールを回してゴールまで運んでいきます。得点が入ったシーンでチームメイトも観客も一緒に喜ぶところが魅力です。盛り上がるポイントがはつきりしています。

曾我部 アルティメットは、100×37メートルの大きなコートの中で、フライングディスクをパスをしながらつなぎ、コートの両サイド18メートルのエンドゾーンと呼ばれるエリアでキャッチすれば得点が入る競技です。よくラグビーとバスケットを合わせたようなスポーツと言われます。アルティメットは「究極」という意味なんです。走る、飛ぶ、投げる、さらにダイビングキャッチもしてめっちゃ泥だらけになったりして、まさに名前通りの競技です。大きなシュートから思い切り走って、飛んで、キャッチして、ゴールのときはすごく盛り上がります。ゴールのたびにパフォーマンスするチームもあつたり。観客も楽しいと思います！

稲葉 セバタクローは、簡単に言うと、バレーボールの足版のようなもの。コートとネットが全部バドミントンと同じで、僕のアゴくらいの高さのネットです。バレーと違って1人3回ボールに触れてOKで、チームで3回まで触れます。サッカーと一緒に、手以外の頭や腿も使います。

間中 ネットの高さが顎まであるってこと!? そこまで足を上げるっていうのがまず想像できない。

稲葉 見たことないかもしれないけれど、オーバーヘッドで1回転してアタックしたり。そのまま足を上げて打つシザーアタックというのもある。結構いろんなスポーツをやってきましたが、セバタクローが一番難しいです。サッカーも5年くらいやったし、高校のラグビー部で足を結構使ったんですけど、それでも最初は全然試合にもならないくらいの感じでした。

なぜそのクラブに入ろうと思ったのですか？

稲葉 もともとボールを蹴るのが好きで、インスタを見ていたらまたまセバタクローが流れてきて。あと日本代表に日体大出身者が結構いるから頑張って目指してみようかなって。

曾我部 私はそもそも部活に入る気が全然なかったんですけど、「日体大に入って部活やらないのは寂しくない？」って母に言われ、じゃあ何かやろうかなと思いついて、稲葉さんと同じようにインスタを見て楽しそうだなと思ったのがきっかけ。体験に行ったら楽しくてすぐ決めました。

間中 僕も曾我部さんと似ていて、部活に入る予定はなかったです。高校でサッカーやっていましたが、大学で続けるまでの意欲はなくて。でも高校の先輩がホッケー部のマネージャーをやっていたので顔だけ出したんです。当時、友人が部活に入りたくて、いろんなところに体験に行っても、なかなか自分に合う競技が見つからないと言ったので「じゃあ俺と一緒にホッケー部行かない？」と誘ったらすごく興味持ってくれて。気づいたら一緒に4年間やってるとい感じでした。



ホッケー部 主将
間中 太一
(まなか たいち)
スポーツ文化学部
スポーツ国際学科4年

苦勞していることや工夫していること

— 運営面などで

お互いに聞いてみたいことは？

間中 ホッケーは、正直あまり入部希望者がいない種目。大学から始める人がメインです。部員の勧誘は何か工夫していますか？

稲葉 とにかく「みんな初めて」というのを伝えて安心してもらう。マイナースポーツを大学から始めたいという学生は、ラクロス、ホッケー、アルティメットと回ってからウチに来たりしますね。

會我部 そこは共通点ですね。

間中 僕は、少しでも興味を持って来てくれた人には他部活と違うところを話しています。うちの部活は顧問、コーチ、部長はいますが、基本的に学生が主体で活動しています。「自主性を持って部活に取り組みたいのであれば、うちはお勧めだよ」という声かけは結構しているけど、2人はどう？

稲葉 うちとはとにかく「日本代表」っていうワードをめっちゃくちゃ言います。4年生全員が日本代表に入っています。



會我部 一緒です！「日本代表も夢じゃないよ」って。私も一応アンダー24でやっていて、女子



も男子も5人ずつくらい選ばれていきます。直近の7月にはイギリスで大会があります。

稲葉 俺もタイであります。コロナで開催されていなかったアンダー21の大会。

間中 遠征費って自費だよな？活動費ってどうしてる？週に5日練習でバイトもほとんどできないし。

會我部 うちの部はバイトしている人多いです。みんな部活終わってから夜に居酒屋とかで。私は朝コンビニでバイトしています。24時間アシリートって感じですね！

学友会活動を通して得た貴重な経験や成長

— クラブ活動に入って良かったですか？

間中 苦勞はたくさんあるけど、やっぱり部活をやったプラスになったことのほうがずっと多いよね。他では得られない人とのつながりとかあるんじゃない？

稲葉 他大学の人やOBともつながれるのが結構良かったですね。顧問がいなくて本当に学生だけでやっているので練習試合の文化はないんですが、アンダーで知り合った他大学の人を呼んで試合することはあります。マイナースポーツのせいとか、東大とか慶應とか自分たちとは違う良さのある大学ばかり。

會我部 私は、今まで別に先輩や他大学の人たちとのつながりが大事だと思ってたことがなかったんです。でも社会人の方と練習試合するようになって、つながりって大事だと感じるようになりました。アンダーで出会った選手たちとはこれからもずっとアルティメットを続けていく仲間なんだと大切に思うようになり、自分ですごく変わりました。

間中 ホッケーの世界は他大学との関係性が浅いですが、今年から僕が中心になっていろんな大学の主将に声をかけて練習試合を始めとしたつながりを持てるグループを作りました。現在、関東・関西それぞれ20大学くらいと北海道の大学にも声をかけています。主将同士でやりとりして、「じゃあこの日程で3つの大学で練習試合しよう」と決めたり。

セバタクロ一部



主将 稲葉 瞭 (いなば りょう)

体育学部 体育学科3年

埼玉県立川口北高等学校卒

- ①大学1年生
- ②教員になりたかったから。
- ③頑張れば上手くなれるところ。
- ④ジュニアオリンピックカップでの優勝。
- ⑤教職員

【所属部について】

<部員数>男子/1年9人、2年4人、3年5人、4年7人
女子/1年11人、2年5人、3年2人、4年5人

<活動内容>練習日/火・木・金

場所/青葉台中学校(火)、第3体育館(木・金)

<目標大会・試合>全日本学生選手権大会優勝

<主な戦績>全日本学生セバタクロオープン選手権大会優勝

JOCジュニアオリンピックカップ優勝

<ここがウリ!>

**頑張れば日本代表になれる。
アタックがカッコいい。**



- ①競技を始めた時期
- ②日体大に入学した理由
- ③部活のここが好き！
- ④日体大で印象に残っている思い出
- ⑤将来の希望

大学時代を 充実させるヒント

——クラブをどうするか迷っている人に
伝えたいことは？

曾我部 日体大に入った学生は、中高で部活を頑張ってきた人が多いと思います。アルティメットは間違いなくそれを生かします。例えば陸上なら、もし投げられなくても最初は走ってくれば、あとは先輩がポンって投げたディスクをキャッチするだけで自分の役割で輝けるし。元野球部なら肩が強いから遠くまで投げられる。バスケ部ならディフェンスが似ているので活躍できる。自分がやってきたことと似ている動きを発見したら上手くなるのも早いので、まず体験に来て欲しいと思います。とにかくみんなスタートラインは一緒だし、中学校のときの部活の最初みたいな感じですよ！

間中 でもそれも体験に来てくれないと分からないよね。僕が伝えたいのは、高校の部活と大学の部活は全然違うこと。高校までは監督を中心に部活が回るけど、大学の部活は自分たちがやりたいことを自分たちで考えて意外と自由にできる。

稲葉 そう、やらされてる感がまったくありません。自分がどれだけやるかだけ。俺も顧問の言うことを聞いてただやるという中学校の部活は全然好きじゃなかったんですけど、大学ではマイナースポーツだとおさら自分たちで考えてできるので、すごくお勧めです。

曾我部 友達がいるってすごく楽しいじゃないですか。友達いると笑顔になって疲れも吹き飛びます。部活に行くストレス発散にもなるので、そういう場所があ

るだけで違う。もちろん部活に入らなくても学科で友達をつくって「あそこに行けば楽しい」という居場所になれば学生生活は充実するんじゃないかな。ちなみに、居場所を見つけるために大切なのは、自分に正直になること。無理せず心から居心地がいいと思える場所に行くことです。



間中 あとは、みんな卒業後の夢はある程度入学する前から固まっていると思うんですよ。けれど、大学時代にしかできないことにも目を向けてほしい。バイトもいろいろ、お金なんて社会

人になればいくらでも稼げる。でも部活は今しかできないし、他にも入学してみたら大学時代にしかできないことがたくさんあるってわかるはず。そういうことをもう少し真剣に考えてもいいんじゃないかな。4年間ってあっという間なんです。この4年間で成し遂げたいことを決めていけば、すごく充実すると思う。



Ultimate

ホッケー部



主将 間中 太一 (まなか たいち)

スポーツ文化学部
スポーツ国際学科4年
日本体育大学荏原高等学校卒

- ①大学1年生の10月頃
- ②教職関係に携わり、指導者としての経験を測るため
- ③選手を中心とした活動
- ④実習関係、キャンプ実習、スケート実習
- ⑤教員

【所属部について】

<部員数>20名
<活動内容>練習日/週5日(火・金はOFF)
場所/世田谷キャンパス
<目標大会・試合>関東学生リーグ 1部昇格
<主な戦績>3部優勝 2部優勝



<ここがウリ!>

学生が中心となり自主的な活動をしています!

アルティメット部



キャプテン 曾我部 菜菜 (そがべ かなな)

スポーツマネジメント学部
スポーツライフマネジメント学科3年
東京都立高島高等学校卒

- ①大学1年生の5月ごろ
- ②体育教師を目指すうえで、専門性の高さや歴史の深さに魅力を感じて。
- ③チーム全員で厳しくも楽しみながら全力で走ることができる!
- ④海浜実習(頑張って泳ぎました!), 全日本学生選手権大会での優勝
- ⑤体育教師。体を動かすことの楽しさを子どもたちに伝えること。

【所属部について】

<部員数>男子/48名 女子/23名
<活動内容>練習日/火・木・土 場所/宇奈根多目的広場、世田谷キャンパス
<目標大会・試合>全日本学生選手権大会で日本一を目指しています!
<主な戦績>男子 DISCRAFT ULTIMATE OPEN 準優勝
女子 全日本大学アルティメット選手権大会 優勝

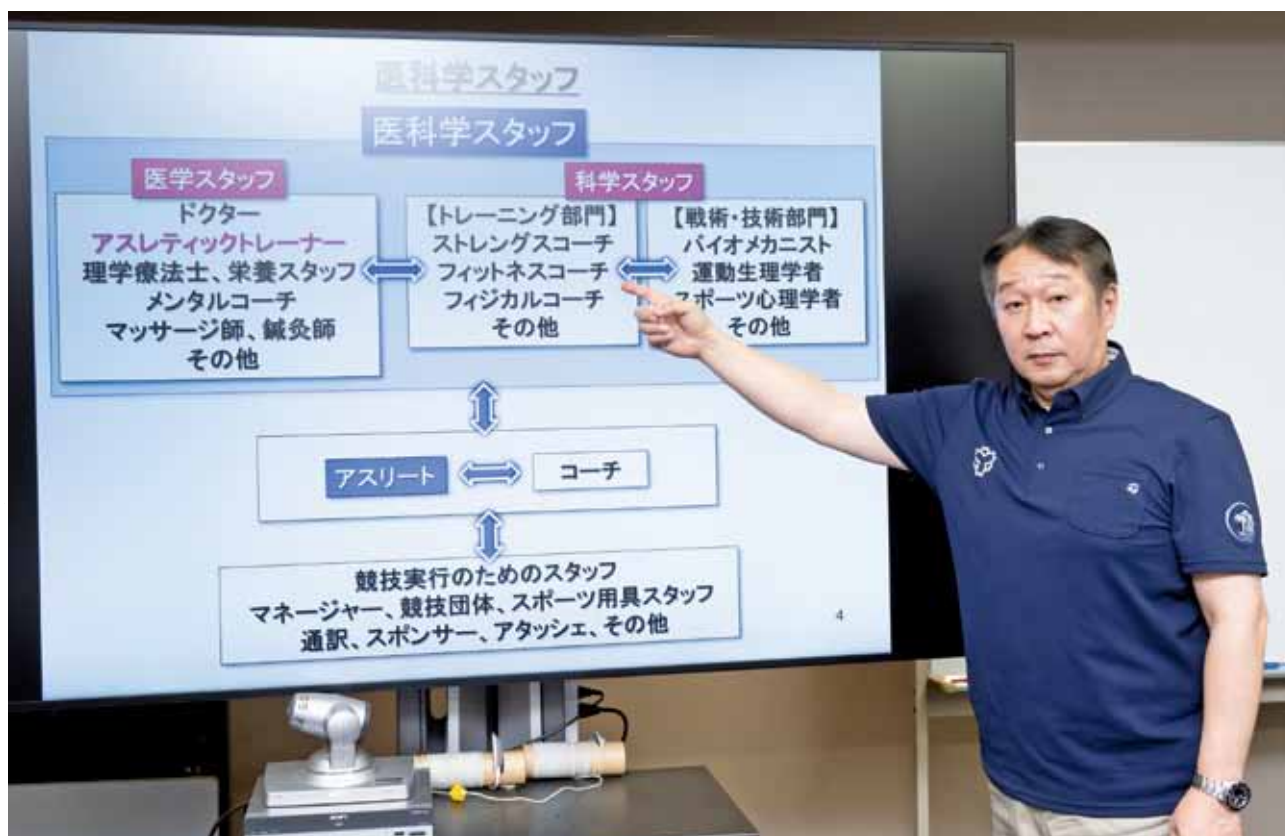
<ここがウリ!>

大学から始める人が9割! でも日本一を目指せるし、日本代表も夢じゃない! どハマリすること間違いなし!

スポーツの現場をトータルに支える アスレティックトレーニング学

～スポーツ実践者のコンディショニングを担うスペシャリストとして
科学と医学の架け橋となるアスレティックトレーナーの役割～

アメリカを中心に海外では広く認知されるアスレティックトレーニング学ですが、日本ではまだまだ発展途上であり2012年にアスレティックトレーニング学会が発足したばかりという背景があります。しかし昨今の世界情勢を鑑みると、アスリートにおけるヘルスケアのグローバルスタンダード化はますます進むことでしょう。そこで今回は、ご自身も数々の関連資格を有し、WBCやオリンピックではヘッドトレーナーとして活躍された保健医療学部の河野徳良准教授にご登場いただきました。スポーツ現場でアスレティックトレーニング学がどのように役立つのか、また今後の展望について、これまでの豊富な経験に基づいたお話を伺います。



【プロフィール】
河野徳良(こうの とくよし)



保健医療学部 整復医療学科 准教授。
日本体育大学卒業、インディアナ州立大学
大学院アスレティックトレーニング学修士
課程修了。学位Athletic Training M.S.。アス
レティックトレーナーの育成に携わる一方
で、侍ジャパン(野球日本代表)のヘッド
トレーナーとしてシドニー、アテネ、北京五輪
に参加。WBC(ワールド・ベースボール・ク
ラシック)には第1回から帯同している。
所属学会:NATA(全米アスレティックトレー
ナー)学会、日本体力医学会、日本体育学
会、日本アスレティックトレーニング学会

【免許・資格】

1. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー
2. NATA(全米アスレティックトレーナー協会)公認アスレティックトレーナー
3. JPSU-ST(全国体育スポーツ系大学協議会)認定スポーツトレーナー
4. あん摩マッサージ指圧師免許
5. はり師免許
6. きゅう師免許
7. IBAF(国際野球連盟)認定テクニカル・コミッショナー

河野先生からのメッセージ

学生たちにはいつも「価値ある人間になりなさい」と伝えます。価値あるとは「希少性と必要性」を持っているということです。希少性というのは他の人にもないものがあること。そして、プロ野球やJリーグのトレーナーになりたいのなら、まずそのチームが何を求めているかを知る。治療の力やトレーニングの指導力だけでなく語学力も求められているなら、それをやることで必要性も手に入ります。価値ある人間になれば、必然的に仕事はたくさん来ます。

体育の教員になりたくて日体大に入学してくる学生が多いですが、トレーナーを目指している学生も多い印象です。どちらにせよ、せっかく本学に入ったのだから徹底的にアスレティックトレーニングを学ぶのも良いかもしれません。将来、部活の顧問になってもプロチームのトレーナーになっても、競技者のことをトータルでサポートできる人材はまさに、世間が求める日体生像であり、今後ますます必要とされるはずですよ。

アスレティックトレーニング学とは

—アスレティックトレーニング学とは

どのような学問か？

ドクターは医学、スポーツ科学者や研究者はスポーツ科学の学問領域で活動しています。ちょうどその中間にあり両方の領域の一部をカバーしているのがアスレティックトレーニング学です。その実践者であるアスレティックトレーナーは、スポーツ現場と医学界との重要な仲介役でありスポーツ選手のコンディショニングを担うスペシャリストです。アメリカでは広く認知されている学問かつ職業領域ですが、日本では比較的新しく、ここ10年くらいでようやくアスレティックトレーニング学会ができました。医学とスポーツ科学の範囲を広く扱う総合的領域ということもあり、なかなか説明するのが難しい学問領域です。

—アスレティックトレーニング学を学ぶ目的は？

かつてはアスリートの目標に向かってコンディショニングすることが目的でしたが、近年は週に一回スポーツする人も含めた全スポーツ実践者の健康維持などにも広く役立つようになります。スポーツ実践者がケガなく力を発揮できるようにサポートするのがトレーナーの役割で、アスリートの場合は目標とする試合に向けてトレーニングメニューの処方や指導、そして、パフォーマンス向上、ケガ防止に役立てるためフォームチェックを行い、正しいスポーツ動作の指導も行います。またケガをした人に対してテーピングやリハビリテーションを行うこともあります。そういったことをトータルでできるようにするのが目的です。

—一般の学生にとってはどのように役立つのか？

本学は体育の教員を目指し入学してくる学生が多いですが、他にも体育の教員免許を取れる学校は全国にたくさんあります。他大学と日体大の違いとして部活動が盛んで、ほとんどのスポーツが日本一を目指し、さらにはオリンピックを目指している選手も多くいます。そのようなトップアスリートを支えるATルーム、トレーニングルーム、クリニックなど日本を代表する施設が整っています。

さらに、トレーナーとして経験豊富な教員も多いため、机上での理論に加え、経験知を学生に伝えることができます。私が日体大にいる意味もそこにあると感じています。将来、中学校や高校で部活動の指導をしたい人もいると思いますが、「あの先生はケガしたときにもちゃんと対応してくれた」「テーピングも的確に巻いてくれた」「こういう膝の使い方をしているとケガするからと、正しい動きを教えてくださいました」というように、あの先生が顧問になったらケガも減りパフォーマンスが良くなったと言われるような、生徒を支えられる教員になつてほしい。たとえばトレーナー職に就かなくても学びは活かされるのではないのでしょうか。シューズやウェアの選び方、さらに心理的なコンディショニングについても勉強しますので、どんな世界でも役に立つスキルだと思っています。



アスレティックトレーナーの活躍の場

アスレティックトレーナーは予防手段、救急処置、障害管理を円滑に進めるための、スポーツ現場と医学界との重要な仲介役。具体的な役割は競技種目、雇用形態によって異なりカバーする範囲は非常に広い。スポーツ選手のコンディショニングを担うスペシャリストとして、プロスポーツチームに所属したり、アスリート個人と専属契約を結び、国内にとどまらず海外で活躍している人も多く、選手の健康管理やケガの予防、パフォーマンス向上のためにメンタル的なことも含めたコンディショニングなどトータルにサポートする。他には、一般のスポーツ実践者を対象としたフィットネスクラブやジムなどスポーツ施設に所属することもある。その場合は、それぞれの年齢や職業や目標に合わせたトレーニングメニューを考えたり、ときには栄養指導などを行うことも。また、柔道整復師、鍼・灸師、あん摩マッサージ指圧師、理学療法士などの資格を取得し、病院、クリニックなどの医療機関や接骨院、治療院などで活動する道もある。



スポーツを支える立場として

先生の学外での活動について

最近の主なものでは2021年の東京オリンピックで野球日本代表チーム、いわゆる侍ジャパンのヘッドトレーナーを務めました。それから今年(2023年)の2〜3月のWBCでのヘッドトレーナーです。

日本代表チームでは、オフィシャルトレーナーとそれ以外と大きく分けて二つに分かれます。WBCの場合、日本野球機構(NPB)との間でその期間のみ契約を交わすのがオフィシャルトレーナーで今回は4名でした。それ以外は各球団のトレーナーや、選手がパーソナルに雇っているトレーナーです。オフィシャルトレーナー以外はIDがなく試合では球場の中には入れません。そのため、私たちオフィシャルトレーナーが事前に各選手の細かいコンディションや注意事項を各球団に調査し、全選手のサポートを行うわけです。

オリンピックの場合は、コロナ対応として、野球独自でコロナ対策としてバブル対策(選手や運営関係者を隔離し、外部と接触させない方式)を行っていたため、練習においても全て練習においても全てオフィシャルトレーナーしか入れなかったため、それ以外のトレーナーはずっとホテルで待機でした。疲労回復のためのコンディショニング調整はもちろん、普通プロ野球だとトレーニングコーチやコンディショニングコーチが担うようなウオーミングアップ、クーリングダウンなども私たちがやりました。他にはボールが普段使っている球とは違う国際球なので、それによってマメができる部位が異なります。それは普段と異なるところに負担がかかっているという点なので気を配らなくてはなりません。

さらには、アンチドーピングの指導、選手がケガをした際の広報なども行います。

WBCでは、トレーナーの一人がバッティングピッチャーをやりました。大会によっては、スコアをつけたり、通訳を行

うこともあります。これらはIDの数に制限があるためマルチタスクでチームを支えます。

顧問を務めるトレーナー研究会とは？

トレーナーにもいろいろあり、医療資格を持つトレーナーなのか、トレーニング指導をするトレーナーなのか、イメージは漠然としています。そのため学生たちも、とりあえずトレーニングが巻ければいいかな、くらいで研究会に入ってくる学生も多いんです。でも一般企業に入りたい人も含めて、せつかく日体大に入ってきたのだから徹底的にアスレティックトレーニングを学べば、一通りのことが身につきます。そして、いろいろな学友会団体にメンバーを派遣して実践してもらっているの、机上での勉強を具現化できるのがこの研究会です。

トレーナーとして、教師として、

気をつけていることやモットーは？

私も代表監督と同じくらいの年齢になってきているので、選手に対する態度には気をつけています。トレーナーなので高圧的になることはあまりないですが、言いづらい雰囲気はなくすよう心がけています。でないと、例えばどこか痛いの、「そんなもん大丈夫だろう」と私が言ってしまったら選手はもうそれ以上言わなくなってしまう。些細なことでもいいので、「この人なら聞いてもらえそう」という雰囲気を出すようにしています。

そのためにジャンルを問わずこの人は、と思う人の話し方をすこく参考にしているんです。言葉の発し方だけではなく、アティチュードつまり態度や姿勢も「伝わる話し方」の大事な要素です。

国際舞台で活躍するには？



日本でアスレティックトレーナーとして活動するのに必要な資格や経験を持った上で、さらに国際舞台で活躍するためにはプラスアルファで語学力や資格が必要。河野先生によれば、アメリカではAthletic Trainer, Certified (ATC) というNATA (全米アスレティックトレーナーズ協会) 公認のアスレティックトレーナー資格があり、例えばWBCのトレーナーになりベンチに入るためにはこの資格が必要であると大会規定でまっている。大会時にはそのATCが英語で記入しなければならない書類が多くある。ATCになるためには、大学卒業後、準医療職教育プログラム認定委員会が認めたプログラムを有する大学院(河野先生の場合はインディアナ州立大学)でカリキュラムを履修、2年以上5年以内に800時間以上の実習をATCのもとで行う(うち400時間はトレーニングルーム内での実習)。大学院修了後、NATABOC認定試験を受験し全ての分野(筆記試験、口述実技試験、筆記シミュレーション試験)に合格すると晴れてNATA公認アスレティックトレーナー(ATC)として活動できる。



WBC金メダル

トレーナーを目指すには？

— アスレティックトレーナーとしての
キャリアの築き方は？

日本でまずトレーナーをやるなら、日本スポーツ協会のアスレティックトレーナー資格は絶対に取ったほうがいいでしょう。あとは、人の体に触れることができる医療資格を持っていると活動の幅が広がります。なおかつトレーニングの指導もできるということになれば、需要はあると思います。いくつも持っている人は数少ないので希少性がありますよね。

必ずしもアメリカのトレーナー資格をとる必要はありませんが、一つの選択肢としては有効です。私の場合、日本大学の学生だった頃に所属していた陸上部に学生トレーナーの組織があり、アメリカのトレーナー資格(ATC)、または鍼灸・マッサージ師の免許を持って国際的に活躍している有名な先輩方が何人もいらしたのです。もともととは体育教員になりたかったのですが、そういう方々を身近で見ている、自分は日本とアメリカの両方の資格を取りたいと思うようになりしました。当時はそういうキャリアを持つ人はほとんどいなかったのですが、誰も通ったことがないレールの敷かれていない道を進みたいと思いました。結果的に、当時、体育系大学を卒業し、鍼灸・マッサージの免許、そしてATCの資格を持っている人は日本で私ともう一人の2名だけでした。

英語が全然勉強できなかったのですが、まずアメリカで語学学校に1年ほど通い、大学院に入るため、1年間大学で必須科目を履修しますが、トレーナーのカリキュラムに入るためにはGPAで3.5/4.0以上ないと申請できないため、全ての科目でトップを狙うよう、頑張りました。これまでの人生で最も勉強していた時期です。

トレーナーとしてキャリアを築くには、専門的な知識・技術を継続的に蓄積し、常に最新の情報を得ることは重要

です。そこで得たことを基礎とし、目指すところ(野球界、サッカー界など)が何を求めているのかを考え、必要な資格を取得することが準備となります。最近の傾向は、学生トレーナーを経験している人が多いので、学生時代にさまざまな現場経験を積むこともキャリアを築くための最初の一步と考えています。

— アスレティックトレーナーの職域について
今後の展望は？

まずひとつ目に、女性の学生にとってはこれからの時代はチャンスだと思います。女性トレーナーは圧倒的に人数が少ないのに需要は高まっているからです。私はバトミントン協会のトレーナー部会長でもありますが、男女一緒の遠征の際、男性と女性のトレーナーを1人ずつつけてもらっています。でもどうしても女性は結婚や出産等で一時期離れてしまうことがあるのでトレーナーの数が足りていません。

ふたつ目に、アスレティックというアスリートや競技者のみを対象にしているように感じますが、これからは年齢や性別や人種に関係なくすべての人の健康維持をサポートするという役割が出てくると思います。医学部の領域は主に病気になるってから役立つものですが、私たち体育大学の領域は病気を未然に防ぐために役立つ学問です。

日本だけに目を向けると、人口が急激に減少している中でスポーツ人口も減少傾向なのかもしれないですが、世界的に見ると人口はむしろ増えています。ゆくゆくは日本も多国籍社会になるはずなので、もちろん語学も勉強しながら広い視野で世界に目を向けていけば、アスレティックトレーナーの活躍の場が広がる可能性は大いにあるだろうと考えています。



トレーニングQ&A

Q：初めてやるトレーニングをしたら、体中が痛くなりました。やめた方がいいのでしょうか？ それとも続けることで痛みを乗り越えるべきでしょうか。

A：痛みの種類にもよりますが、筋肉痛であれば正常な反応であり、やめる必要はありません。しかし、数日たっても痛みが引かないようであれば、原因を探るため、そのトレーニングはやめる必要があります。

Q：ストレッチは運動の前後でやらないとダメですか？

A：勿論、運動の前後でストレッチをやる必要があります。運動前は、動きを伴うような動的ストレッチ、運動後には、縮んだ筋肉を元に戻すため、静的ストレッチが有効です。

Q：運動時の水分補給はお茶や水よりもスポーツドリンクが良いですか？

A：コンディショニングの授業では図を使って説明していますが、水分、塩分、エネルギーの何を必要としているかによって必要なドリンクはまったく違います。それを間違えると逆効果になるので注意が必要。また種類だけでなくタイミングも重要です。1分間にどれくらい腸から吸収するかを考えなければいけません。運動開始前、運動中、運動後に的確な量をこまめに摂取するのが基本です。

活躍する

OG

麒麟ビール株式会社

糸魚川 彩氏

体育学部 健康学科 卒業 (2017年度)

INTERVIEW

教員を目指していた高校時代、
オーブンキャンパスで目惚れして日体大へ。
在学中に打ち込んだ集団行動が、次の人生の扉を開けた。

日体大の象徴の一つであり、長い伝統を持つ集団行動。糸魚川さんはそこに1年生の時から参加し、かけがえない仲間や経験を得た。最初は練習に付いて行くのがやっと。しかし本気で取り込むからこそ生まれる、先輩たちとの深いコミュニケーション。それは高校時代に経験したことのない、人生の糧になるものだった。やがて進路の岐路に立った時、鮮烈だった集団行動の記憶は教員志望の彼女を民間企業に向かわせる。そして糸魚川さんは現在、培った継続力を武器に、ビール業界のトップメーカーである麒麟ビール株式会社で、営業職として活躍している。



オープンキャンパスで一目惚れ

高校時代は体育の教員を目指していたので、体育学部のあるいくつかの大学のオープンキャンパスに行きました。その中で日体大に行った時、「ここに行きたい！」と思い、その日のうちに第1志望に決めたのです。他の大学より教員になりたい人や夢を持っている人が多く、先生たちにも情熱があつて魅力的な印象を持ちました。何かを目指す時つて、だからしていたら実現しませんよね。どうせ大学で時間やお金を費やすのなら、ちゃんとやりたいと思い、日体大を選びました。

実は、体育大には少し怖いイメージもあつたので、一般の大学への進学も考えていたのです。でもオープンキャンパスを見て、日体大に一目惚れしました。そういうインスピレーションはホームページだけでは分からないので、実際に見てみるのが大事ですね。高校でお世話になった先生の中に日体大出身の方がいて、良い印象が



あつたことも後押しになりました。とにかく、少しでも日体大が気になつている受験生の方がいたら、ぜひオープンキャンパスに来てください。実際に入った後もオープンキャンパスの印象通り。生まれ変わつても日体大に行きたいと思うぐらい、本当に良い学生生活を送らせてもらいました。授業についても、当時はクラス分けがされていて、その仲間たちと頑張れたイメージがあります。

私は集団行動をやつていたので合宿が多かつたのです。1回の合宿で1週間、他にも3日間ぐらいの公演が入つたりして、授業に出られないこともありました。そんな時、私の分のノートを別のノートで取つてくれて、一緒にテスト頑張ろうねという空気。私が集団行動に一生懸命に取り組んでいるのを友達が見てくれていて、私も友達の部活などの頑張りをしています。そこからお互いに応援しあえる関係が生まれたのは、フワフワじゃない、本気の人たちの集まりだからだと思います。

集団行動が人生の大きな糧に

2014年から2016年まで、1年生から3年生の3年間、集団行動に参加させていただきました。きつかけは、1年生の時に知り合の先輩に声をかけられたことです。部活に入つていなかったのですが、せっかく日体大に来たのだから、その中でも一番きつといわれる集団行動に挑戦するのでもいいかと思つて決めました。

最初のうちは、ついでいくのがやつとで、毎日

怒られていました。でも先輩方が優しく、練習中は学年関係なくみんなで教え合つたり、意見を出し合つたり。先生も練習が終われば笑顔ですし、そうした環境のおかげで乗り越えられました。その時の先輩とは今でもご飯に行つたり、結婚式の2次会に呼んでいただいたりして繋がつています。

1年目は個人的な達成感が大きかつたのですが、2年目、3年目はみんなでやりきつた達成感など、違う景色が見えてきました。熱意を持つて集団行動に取り組んだことが、その後の人生の大きな糧になつたと思います。

その後、就職を考えた時に大きな転換点となつたのが教育実習です。学校にはいろんな生徒がいて、熱量も様々なことを知り少し戸惑いを感じました。私は日体大で集団行動ののめり込んだせいか、それと比べてしまう所があつたのです。そんな時、集団行動の先輩の中にも民間で活躍されている方々がいるのを見て、そういう道もあるんだなと。それで、私は食べた飲み物や好きな飲み物など、飲食に関する業種をメインに就活をしました。さらにそこで一生働けるか、無くならない業種かなどを考え、ビール業界のトップメーカーである今の会社を受けようと思つたのです。

私の武器は継続力

面接では、継続力のお話をさせていただきました。集団行動を1年生から3年間続けられたことは自分の財産になつていたので「私は継続

できます」嫌なことから逃げません」と。実際、就職してからも後ろを向かず、継続できていると思います。

入社後は一貫して営業職をしています。お酒の営業は2パターンあり、1つがスーパーさんやコンビニさん向け、もう1つが飲食店さんへの営業です。私は後者で、居酒屋や結婚式場、温浴施設やゴルフ場などにご提案などをしていきます。

大きな企業なのでいろいろな大学の出身者がいますが、最後までやりきれぬ力で勝負ができていると感じます。もちろん正解が分からなかつたり、失敗したりして立ち止まつてしまうこともあります。そんな時でも自分の状態をすぐに認め、上司などに素直に相談できるのも強みです。

人の話を素直に聞く、失敗したら謝る、プライドが高いとそうした行動が難しいこともありますが、でも日体大生はすぐに前向きになつて次に行ける人が多いので、結果を出しやすいと思います。あとは脚力、女性なのですが「足で稼いでる」という、体力面の強さは確かにあります。

今後は、入社してから業務用の営業を長くやつてきたので、次はスーパーやコンビニなどの現場を経験したいです。その上で、会社の主軸を担うような商品の広告のお仕事もやつてみたいと思います。

活躍する

OB

横浜冷凍株式会社
服部 郁真氏

体育学部 体育学科 卒業（2003年度）

INTERVIEW



頑張った先に、見えてくるものがある。
転機も困難も、自分にとっては壁じゃない。
応援団や寮生活が、目指すゴールの大切さを教えてくれた。

愛知から上京し、学生寮での出会いから応援団という未知の世界に飛び込んだ服部さん。応援団の練習や試練の夏合宿、さらに集団行動やエッサツサなど、入学前には想像もなかったハードな学生生活を送ることに。その中で自分を磨くも、教員免許に必要な単位が不足して進路を転換。厳しい就職氷河期を乗り越え大手食品流通系企業に就職すると、その後も突然の海外出張や通販事業の新規立ち上げなど、想定外のことばかり。しかし日体大で培った、どんな転機も困難もポジティブに捉える力で、常にゴールを見据えて進んでいる。

思いがけず応援団に

日体大に入って何に熱中したかといえば、応援団です。でも応援団をやるなんて、入学する時は頭の片隅にもありませんでした。親にも「なんで応援団なの?」と言われたほどです。

私は高校まで野球に打ち込み、進学は考えていませんでした。しかし担任の先生から体育大学の存在を聞き、教員になりたい気持ちもあって日体大を受けたのが入学のきっかけです。

ただ野球は燃えつき症候群のようになっていたので、大学では違う部活を考えていました。それで愛知から上京して学生寮に入ったところ、当時の応援団長が学生寮にいまして、毎晩僕の部屋に来るのです。そこで応援団に熱心に誘われ、というか拉致されるようにして、気づけば学ランを作りに行っていました。入団を決めた

のは知らない世界を見てみたい気持ちや、団長や先輩方がカッコ良く見えたのも理由です。4年生になったら、こんな大人になれるんだという見本に見えました。

その後、8月に応援団の合宿がありました。これがかなり厳しいのです。同期が他に1人だけだったので、とにかく励まし合って…。でもその合宿を乗り越えたことで、卒業まで応援団を続ける決意が固まりました。

集団行動やエッサッサで得たもの

応援団に加えて辛かったのが、集団行動とエッサッサです。集団行動は1年から強制で、最初にビデオ見せられた時は絶対にできないと思いました。信じられないほど統制が取れていて、こんな僕には無理だと。でも毎日練習していると、いつかできるようなものなのです。そして実演会で披露すると大きな歓声が沸き上がり、これまでにない達成感が溢れました。それがあるに気持ちよすぎて、終わった時には「来年もやろう」と決めたほどです。苦しくても頑張れば、最後は自分にとって良い結果になるんだという、大きな経験になりました。

ただエッサッサも同時進行で、これが厳しかったです。朝6時頃にエッサッサの練習が始まり、7時半ぐらいに終わって学校に行き、夜の11時から集団行動が始まります。寮に帰るのが朝方で、その数時間後にはエッサッサという。それが続く1ヶ月は、気合と根性あるのみでした。今とは時代が違うと思いますが、何があつて

も「自分にとっては壁じゃない」というポジティブな受け止め方ができるようになったのは、集団行動や応援団から学んだ面が大きいと思います。

自分を磨き困難を楽しむ

卒業後の進路を固めたのは3年生の終わり頃です。教員免許に関わる単位が不足し、免許を取るには半年間ほど留年する必要が出てしまいました。それで少し前から民間企業に興味が出てきたこともあり、広い世界を見たいと思い、路線変更したのです。

どうせなら大きな企業に、そして業種は関心のあつた食品関連企業の水産系に絞りました。しかし折り悪く就職氷河期で、応援団も集団行動も特にプラスにならず、非常に厳しかったのを覚えています。

それでも現在の会社とご縁があり、最初は銚子港にある営業所に配属されました。水揚げされた魚を冷凍する業者から魚を買い取り、食品メーカーに原料として販売する仕事です。銚子には加工基地もあるので、ノルウェーやアメリカから輸入された魚も扱います。僕も3年目からはノルウェー現地に行かせて頂き、買付にも携わるようになりました。

当時、銚子勤務なのにノルウェーに行くなんて、思ってもないことです。人によっては急に海外出張を命じられたら不安になるかもしれませんが、でも僕は楽しみでした。たとえ困難があつても、そこで何かを学び自分を磨けば成長でき

る。困難を乗り越えた先に良いことがある。そういうポジティブに捉える習慣が、在学中に身に付いていたのです。

自分にとっての「ゴール」を決める

現在は、通販などを進めるEC推進室という部署にいます。これも突然辞令の電話がかかってきて「新しくEC部門を立ち上げるからチャレンジしてみてください」という内容でした。そういう世界は詳しくなく、IT職の方と喋っても用語が全く分かりません。全てが手探りでしたが、やっぱり何かワクワクしました。ゴールのビジョンを持ち、それを達成する意気込みがあれば、後は頑張るだけです。

集団行動でもエッサッサでもゴールは必ずあります。実演会の日が決まっているなら、その日が1つのゴールです。そこでの達成感、勝ち負けではなく観客の拍手かもしれません。応援団も競技ではないので、応援しても点数はつかず、記録も残りません。

そこでモチベーションになるのは、1つは自身です。自分を鍛え、成長させる。それを相手に伝わる形のパフォーマンスにする。ダラダラやつていても伝わりません。一生懸命やるから伝わるのです。

そして最終的に目指す先は、自分より部下や会社など、人のために頑張る方が力を発揮できるかもしれない。私はそういうゴールを常に持つようになっています。それも大学で学んだことだと思っています。





研究の最前線 子どもの未来を拓く

子どものからだ研究所

総合スポーツ科学研究センターの新機関として、「子どものからだ研究所」が2023年4月に発足しました。

子どものこころやからだに関する現状は、国内外で今や深刻な問題として取り上げられています。本学の重要なミッションの一つであるこのテーマに、

「子どものからだ研究所」は、豊富な研究実績をもとに果敢に取り組んでいきます。同研究所の設立目的や概要、今後の展望を紹介します。



総合スポーツ科学研究センター長
体育学部健康学科

岡本 孝信 教授

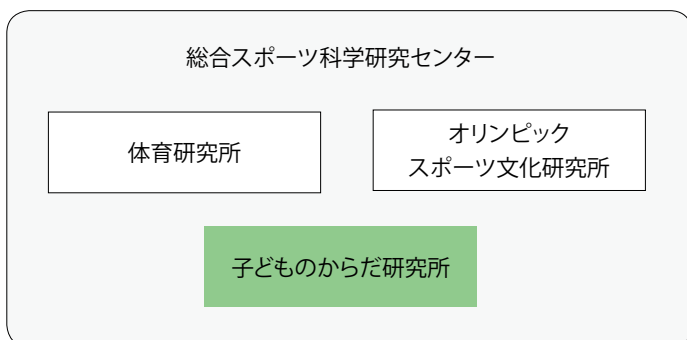
「子どものからだ研究所」から 発信される研究成果に期待

「子どものからだ研究所」は、子どものからだに関する基礎的研究をおよび実践的研究を通じて建学の精神を実現するとともに、その研究成果を広く人類の健康や社会の福祉に貢献することを目的に設立されました。子どものこころやからだに関する諸問題は、日本国内のみならず国際的にも大きな社会問題になっています。これらの問題を解決するために、「子どものからだ研究所」から発信される研究成果に大きな期待が寄せられています。

本学の研究領域は、体育・スポーツ科学を中心に多岐に渡ります。総合スポーツ科学研究センターは、それらの研究を推進し支援する重要な役割を果たしています。総合スポーツ科学研究センター設立以来、ここ10年程度で本学の研究レベルは国内に留まらず、国外に対しても数多くの研究成果が発表されるようになり飛躍的に発展してまいりました。今後は本学の根幹である競技力向上と同時に、研究力を向上させることが本学のさらなる発展において重要です。

総合スポーツ科学研究センターには、「体育研究所」、「オリンピックスポーツ文化研究所」、そしてこの度新設されました「子どものからだ研究所」の3研究所が設置され、それぞれがオリジナリティに富んだ研究を推進しています。「子どものからだ研

研究機関図



子どもの声に耳を傾けることは未来を展望すること



子どものからだ研究所 所長
 体育学部健康学科
野井 真吾 教授

「身体に纏わる文化と科学の総合大学」を標榜する本学では、体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現に向けた教育・研究活動に取り組んでいます。中でも、子どものからだに焦点をあてた研究活動は古くから一貫して取り組まれてきたテーマであり、その研究成果を著実に蓄積してきました。また、その成果を日々の教育活動に活かすだけでなく、広く社会に発信する活動にも努めてきました。正に、本学に課せられた社会的要請に応えるべく推進してきた研究活動といえます。

しかしながら、世間を見渡すと、自殺いじめ、不登校・保健室登校、暴力、虐待、体罰、学級崩壊、貧困・格差等々、子どもをめぐる問題が山積しています。また、健康問題に目を向けても、からだのおかしさ、運動能力低下、身体活動不足、アレルギー、睡眠問題、視力低下、インターネット依存、うつ傾向等々、解決しなければならぬ課題がたくさんです。加えて、国連子どもの権利委員会から示された「日本政府第4・5回統合報告書に関する最終所見」(CRC/C/JPN/CO/4.5)では、「社会の競争的な性格により子ども時代と発達に害されることなく、子どもがその子ども時代を享受することを確保するための措置を取る」と(パラグラフ20)や「(前略)本委員会は、十分かつ持続的な資源を伴った遊びと余暇に関する政策を策定、実施すること、および、余暇と自由な遊びに十分な時間を割り振ることを含め、休息と余暇に関する子どもの権利、および、子どもの年齢にふさわしい遊びとリクリエーション活動を行う子どもの権利を確保するための努力を強化すること」(パラグラフ41)が勧告されている現実もあります。これらの事実、子どものからだに関する研究のさらなる進展の必要性を物語っています。

会50周年を機に、子ども時代の競争的な性格により子ども時代と発達に害されることなく、子どもがその子ども時代を享受することを確保するための措置を取る」と(パラグラフ20)や「(前略)本委員会は、十分かつ持続的な資源を伴った遊びと余暇に関する政策を策定、実施すること、および、余暇と自由な遊びに十分な時間を割り振ることを含め、休息と余暇に関する子どもの権利、および、子どもの年齢にふさわしい遊びとリクリエーション活動を行う子どもの権利を確保するための努力を強化すること」(パラグラフ41)が勧告されている現実もあります。これらの事実、子どものからだに関する研究のさらなる進展の必要性を物語っています。



このようにことから、「身体に纏わる文化と科学の総合大学」として、子どものからだに関する研究を一層推進し、その成果を広く社会に還元することを目的に、本年(2023年)4月に設立されたのが本研究所というわけです。そして、当面は「子どものからだの実態に関する研究(実態研究グループ)」、「子どものからだを育む実践に関する研究(実践研究グループ)」、「子どもに関わるおとな支援に関する研究(支

援研究グループ)」の3つのプロジェクトを掲げて種々の研究を推進していきたいと考えています。兼任所員には、子どもを取り巻く各研究分野の専門家が名前を連ねてくれています。今後の研究成果にご期待ください。また、本年10月9日(スポーツの日)には本研究所の設立記念シンポジウムも企画しています。きっかけは、本研究所の設立を耳にした学外の研究者からの問い合わせでした。とにもかくにも、研究活動をスタートさせないことには研究所の星をなしません。そのため、その船出に精力を傾けていた矢先でした。ただ、そのようなお問い合せをいただき、学内外のみなさんに本研究所の設立を広く知ってもらふ必要性に気づきました。また、本研究所への期待の大きさも感じました。そのため、「設立記念シンポジウム」も企画してみたというわけです。

シンポジウム当日は、本学における子どものからだ研究の過去、現在、未来の展望、各プロジェクトの紹介をさせていただこうと思っております。それだけでなく、日本における子どものからだ研究を長年に亘って牽引してきた小澤治夫先生(静岡産業大学 特別教授・筑波大学附属駒場中・高等学校 教授、北海道教育大学釧路 教授、東海大学 教授、静岡産業大学 副学長等を歴任)には、「子どものからだ研究と日体大への期待」と題する記念講演をお引き受けいただくこともできました。学内外を問わず、どなたでも参加できます。また、一人でも多くの方々と子どものからだについて議論できればと思っております。どうぞ、奮ってご集ください。とさせていただきます。

いずれにしても、産声を上げたばかりの「子どものからだ研究所」ですが、今後は学内外、国内外から子どものからだ研究のメッカといわれる研究所に成長するよう、一歩ずつ着実に子どものための研究を進めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

スポーツが好き！この思いを軸に、 さまざまな分野や舞台で活躍されてきた先生方が、 その豊かな知見や経験を皆さんに伝えます。

大学の学びの大きな魅力の一つが「出会い」です。
中でも、研究や実践、競技を極めた先生方との出会いは大いに刺激になるはずです。
今年度も多彩なバックボーンをもつ先生方が本学に着任されました。
熱意溢れる先生方から多くのことを吸収し、有意義な学生生活を送ってください。

学部生、院生時代の経験が現在の礎に 結果に囚われることなく充実した学生生活を



池田 祐介

(いけだ・ゆうすけ)

体育学部
体育学科准教授

研究テーマ：アスリートを対象に体力測定や競技動作の分析を行い、解析データを元にパフォーマンス向上のためのトレーニング方法について研究しています。

学生時代の思い出：学生時代から筋力トレーニングに関心を持ち、様々な講習会や他大学のトレーニング勉強会に参加していました。大学院時代にトレーニング科学に関する知見をどのようにコーチング現場に取り入れるかを模索した日々は現在の礎になっています。

日体生へひと言：自分の好きなことを大切に、結果に囚われることなく、充実した学生生活を送ってほしいと思っています。そして、“自分の好き”を通して多くの人を幸せにできる人になってください。

こんな人(趣味)：旅行・アウトドア

①山口県／②トレーニング学、運動処方演習／③龍谷大学・経済学部、大阪体育大学・スポーツ科学研究科、国立スポーツ科学センター・研究員、新潟医療福祉大学／④博士(スポーツ科学)(大阪体育大学)

大学で価値ある努力の仕方を学んでほしい 濃厚で有意義な4年間となることを願う



内山 治樹

(うちやま・はるき)

スポーツ文化学部
武道教育学科招聘教授

研究テーマ：バスケットボールを対象に、技術、戦術、競技者、チーム、ルール、コーチング、トレーニングなど、競技スポーツを構成する諸要因・要素の本質究明に取り組んでいます。

学生時代の思い出：学生時代はバスケットボール部に所属し、インカレ優勝のために毎日を過ごしていました。院生のときは研究者を目指して文献や資料と格闘する一方で、筑波大男子のアシスタントコーチや学習院中等科などで教師を経験しました。いずれも現在の大切な財産です。

日体生へひと言：「人間は努力すればするほど迷う」(ゲーテ)ものですが、それは努力している証拠でもあります。ただし、方向とタイミングが重要です。大学時代にぜひその投入の仕方を学んで下さい。「やったもん勝ち」です。濃密で有意義な4年間となることを願っています。

こんな人(趣味)：ゴルフを始めました。思うようにいかず、上手になることの難しさを痛感しています。

①福井県／②スポーツ文化研究B、スポーツ戦術論、チーム型スポーツコーチング論／③筑波大学体育専門学群卒業、筑波大学大学院博士課程体育科学研究科単位取得退学、埼玉大学教育学部助手、文部省在外研究員(ウィーン大学)、筑波大学体育系教授、大学院博士前期課程体育学専攻長、大学院人間総合科学研究科長、大学院人間総合科学学術院長／④教育学修士(筑波大学)、博士(体育科学)(筑波大学)

小児科、特に神経疾患児の診療・研究に従事 日体大を第二の母校として共に学んでいきたい



川上 康彦

(かわかみ・やすひこ)

保健医療学部
救急医療学科教授

研究テーマ：小児神経疾患の脳内免疫状態 および 酸化ストレス動態、小児てんかん患者の基礎的 および 臨床的研究

学生時代の思い出：部活で剣道してました。3代上の主将が大会優勝目指して夏休も正月も返上で練習したのに団体戦で夢叶わず敗退して試合場の片隅で部員皆で号泣した(医学部の大会では珍しい…)こと。青春してました。

日体生へひと言：母校で30数年間小児科、とくに神経疾患(てんかんや発達遅滞)患児の診療・研究に携わったのち、この度御縁があって本学に採用され救急医療分野の指導を仰せつかりました。多少専門外なのですが本学を第2の母校と考え学生諸君と共に学んでいこうと思います。よろしくお願ひします。

こんな人(趣味)：読書。分野を決めず乱読です。とくに歴史小説(司馬遼太郎、山岡荘八、吉川英治…)

①東京都／②内科学I(症候学・老年医学・内分泌学)、内科学II(循環器学)(以上救急医療学科)、一般臨床医学(整備医療学科)／③日本医科大学卒業、日本医科大学小児科講師、准教授／④博士(医学)(日本医科大学)

興味のあることを突き詰めてほしい
さまざまなことにチャレンジを



城所 哲宏

(きどころ・てつひろ)

体育学部
健康学科准教授

研究テーマ：子どもの身体活動・体力をテーマとした疫学研究に従事しています。また世界中の研究者と協力して、多くの国際共同研究に携わっています。

学生時代の思い出：陸上競技部に所属し、練習に明け暮れる生活をしていました。自身のトレーニングに生かすことができる運動生理学に特に興味を抱き、大学院進学を決めました。英国ラフバラでの大学院生活は夢のような時間で、研究の面白さを教えてもらいました。

日体生へひと言：すぐに役に立つことは、すぐに役に立たなくなります。流行りを追うよりも、自分の興味があることをじっくり突き詰めてほしいと思います。大学内・外を問わず、様々なことにチャレンジしてみてください。

こんな人(趣味)：マラソン、登山、トレイルランニングです。休日はだいたい屋外にいます。

①新潟県 ②発育発達論、機能解剖学、健康管理学 ③順天堂大学スポーツ健康科学部卒業、Loughborough University, School of Sport and Exercise Sciences 修了、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科修了、国際基督教大学教養学部 特任講師、明治安田厚生事業団体力医学研究所研究員、日本体育大学体育研究所助教 ④博士(教育学)(東京学芸大学)

新しい自分と可能性を見つけるために
失敗を恐れず挑戦できる人に



白井 健三

(しらい・けんぞう)

体育学部
体育学科助教

研究テーマ：体操競技において、動作を客観的視点からバイオメカニクス的に分析し、選手の競技力向上及びコーチの指導力向上に貢献するための研究

学生時代の思い出：4年間、授業と部活動が両立できるよう努力しました。日体大在学中にオリンピックを経験し色々な景色を見させていただきましたが、中でも部活動の仲間や先生方に支えていただいたという印象が強い学生生活でした。

日体生へひと言：どんなことにでも挑戦することが出来る人になってほしいと思います。失敗を恐れずに挑戦することで自分自身が気が付いていない才能に気が付くはずですよ。学生生活で今まで見たことのない景色を1つでも多く見られるように行動してください！

こんな人(趣味)：人と話すこと、美しい景色をみること、食べることです！

①神奈川県 ②器械運動、競技力向上実践プロジェクトA ③日本体育大学体育学部体育学科卒業、日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻(博士前期課程)修了 ④修士(体育科学)(日本体育大学)

大学時代の経験が社会に出て大きな財産になる
未来を創る「今」を大切に過ごしてほしい



辻 孟彦

(つじ・たけひこ)

体育学部
体育学科助教

研究テーマ：野球において、高いパフォーマンスを発揮するためにはどうすればいいのかを動作解析やコーチング学を用いて研究しています。

学生時代の思い出：日体大の野球部に所属し、プロ野球選手を目標に日々練習していました。授業で学んだ知識をすぐに現場で活かすこと、また、さまざまなスポーツのアスリート達と関わることで大きく成長することができました。大学時代の経験が現在に生かされていると思っています。

日体生へひと言：日体生でしかできない経験は何か、大学生でしかできないチャレンジは何か、大学生活は今後の人生において大きな役割になると考えています。自分自身を成長させていくことで、後に人にしてあげられることも増えます。未来は今が創る、今を大切に過ごしてください。

こんな人(趣味)：アクアリウム(熱帯魚や水草)、ドラマや映画鑑賞。

①京都府 ②運動方法・ソフトボール(野球含む)、競技力向上実践プロジェクトA ③日本体育大学体育学部体育学科卒業、同大学院体育科学研究科コーチング学専攻博士前期課程修了、中日ドラゴンズ(プロ野球選手) ④修士(体育科学)(日本体育大学)(University of Strathclyde)

外国での経験は人生の宝物
今後の出会いや経験を楽しみに積極的に行動を



**梁 凌詩
Nancy**

(りょう・りょうし・なんしー)

スポーツ文化学部
スポーツ国際学科准教授

研究テーマ：少子高齢化、スポーツと健康的な高齢化、中国の「一帯一路イニシアチブ」

学生時代の思い出：高校まで幅跳びをやって精一杯で前に跳びましたが、大学から海外に飛びました。オーストラリアの大学から日本の大学院まで12年間楽しい留学生生活を過ごしました。外国で得られる経験は本から勉強できないものです。人生の宝物です。

日体生へひと言：人生の中でミスがたくさんあると思いますが、それは勉強の一環です。落ち込んでも問題ないですが、早く立ち直ると楽になります。ミスは次の成功につながります。ミスがあるからこそ成長します。私も毎日ミスの中から勉強しています。

こんな人(趣味)：ピクニック ホームパーティー 旅行 料理

①香港 ②社会学、異文化理解論、国際情勢理解 ③ラ・トロップ大学(オーストラリア)人文社会学部卒業、立命館大学大学院国際関係研究科博士前期課程修了、立命館大学大学院国際関係研究科博士後期課程修了 ④博士(国際関係学)(立命館大学大学院)

硬式野球部 令和5年度首都大学野球春季リーグ戦優勝!



令和5年4月30日、大和スタジアムで行なわれました首都大学野球春季リーグ戦におきまして、日体大は桜美林大学に4-3で勝利し、最終戦を待たずして2季連続26回目の優勝を決めました。これによって、6月5日から11日まで実施された第72回全日本大学野球選手権大会(神宮・東京ドーム)に出場し、同大会では2回戦進出を果たしました。

眠れる獅子目覚める! 「関東大学バスケットボール選手権大会」にて21年ぶりに関東制覇!



令和5年4月15日(土)に開幕した「第72回関東大学バスケットボール選手権大会」にて、男子バスケットボール部が21年ぶり(21回目)に優勝いたしました!

本学学生の個人賞は下記の通りです。

- 【最優秀選手賞】 #23 ムトンボジャンピエール(体育学部3年)
- 【優秀選手賞】 #9 大森 尊之(体育学部3年)
- 【アシスト王】 #21 月岡 照(体育学部2年)
- 【リバウンド王】 #23 ムトンボジャンピエール(体育学部3年)
- 【MIP賞(Most Impressive Player) 一般投票にて】
#21 月岡 照(体育学部2年)

日本体育大学クリニックのご案内

平成30(2018)年12月に開院した日本体育大学クリニックでは、スポーツ選手の怪我の治療、予防・アドバイスはもちろん、本学学生・関係者をはじめ、地域住民の方々も対象に、スポーツに起因しない怪我や病気の診断・治療も行っています。

【所在地】 〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1
日本体育大学東京・世田谷キャンパス教育研究棟G階
TEL: 03-5706-0929 FAX: 03-5706-0938



日本体育大学クリニック

■診療時間・診療科

受付開始 14:30		月	火	水	木	金	土・日祝
15:00 ~ 18:00	整形外科 (一般・スポーツ整形外科)	○		○	○	○	休診
	外科 (一般外科)			○			
	内科 (一般・呼吸器内科・スポーツ内科)		○				
	専門外来 (PRP・動注療法)				○		

■診療スタッフ

院長 横田 裕行
医師 平沼 憲治 (整形外科・外科)
橋本 俊彦 (整形外科)
清水 勇樹 (整形外科・専門外来)
橋本 典生 (内科)

※上記休業日の他、以下の休業あり
1. 夏季休業 (8月中に1週間)
2. 開学記念日 (9/20)
3. 冬季休業 (12/28~1/5)
4. その他本学の諸行事等に併ずる臨時休業